

岸田日出刀 建築学者。建築家。内田祥三と関東大震災後の東京大学キャンパス復興に尽力。建築デザインの権威となった。

きしだひでと

Bushidou・1899 = 福岡市で、鳥取県出身の士族で裁判所書記岸田稔の次男に生まれる。

日露戦争終・1905 = 6歳 :

アヲキ 創刊・1908 = 9歳 :

明治天皇没・1912 = 13歳 :

東京府立三中 ,

ロシア革命・1917 = 18歳 :

一高理科甲類を経て ,

原敬首相暗殺 1921 = 22歳 :

水平社結成・1922 = 23歳 : 東京帝国大学工学部建築学科卒業。_内田祥三のもと、「東大安田講堂」の設計に関わってまもなく ,

関東大震災・1923 = 24歳 : **関東大震災に遭遇** ,

護憲三派圧勝 1924 = 25歳 : 同期の蒲原重雄らと共に_{ラトナー}という表現派グループを結成し、復興創案展に出展。学士会館や震災記念建造物のコンペティションに参加し、いずれも佳作入選。

治安維持法・1925 = 26歳 : 東京帝国大学工学部助教授就任。_「東大安田講堂」の完成後、初めての海外視察に出、

円本時代始・1926 = 27歳 : 帰国。

金融恐慌・1927 = 28歳 : 「**オットー・ワグナー** : 建築家としての生涯及び思想」を皮切りに、著作も次々、

共産党事件・1928 = 29歳 : 著書「**欧州近代建築史論**」。「**東大図書館**」以後、東京大学内諸施設を次々設計、

世界恐慌・1929 = 30歳 : 趣味も写真、ゴルフ、麻雀、ビリヤード、囲碁など多彩で、*趣味の写真での著作も「過去の構成」以後、次々。学位論文「**欧州近代建築史論**」を発表して工学博士となり、東大教授に就任。

海軍軍縮条約 1930 = 31歳 : 著書「**高層建築**」「**建築様式の話**」、写真による「**現代の構成**」、

満州事変・1931 = 32歳 : 著書「**欧州近代建築史**」、

五一五事件・1932 = 33歳 : 著書「**建築の話**」、

1930年代には、多摩帝国美術学校でも建築史を教えていた。

芥川直木賞始 1935 = 36歳 :

二二六事件・1936 = 37歳 : 日本工作文化聯盟に参加。

日中戦争始・1937 = 38歳 : 著書「**第十一回オリンピック大会と競技場**」。「**霧**」以降の建築に関する随筆集も評価が高い。

総動員+健保 1938 = 39歳 : **随筆集「望」**、

第二次大戦始 1939 = 40歳 : 千葉県市川市に自邸を設計し構える。また釣りを好み、地元市川の釣友会にも参加。

大政翼賛会・1940 = 41歳 : 著書「**日本建築の特性**」。**写真による「熱河遺蹟」**、

日米開戦・1941 = 42歳 :

..... 1942 = 43歳 : **随筆集「扉」**、

創価学会検挙 1943 = 44歳 : 著書「**ナチス獨逸の建築**」、

年金+総武装 1944 = 45歳 : 著書「**日本の城**」、

敗戦..... 1945 = 46歳 : 著書「**建築学者伊東忠太**」「**すまひの伝統**」、

新憲法公布・1946 = 47歳 : 著書「**焦土に立ちて**」「**不燃家屋の多量生産方式**」、

新憲法施行・1947 = 48歳 : 翌年まで**日本建築学会会長**。

極東裁判判決・1948 = 49歳 : 著書「**建築五講**」**随筆集「窓**」。日本学術会議会員。

三大事件・1949 = 50歳 : 日本建築学会設計競技基準委員会委員長、

朝鮮戦争始・1950 = 51歳 : 「**生長の家本部**」。_1949年度**日本芸術院賞受賞**。

この間、式場隆三郎らとともに、市川の地域文化活動で指導的役割も果たしている。

TV放送始・1953 = 54歳 :

自衛隊発足・1954 = 55歳 : 著書「**京都御所**」、

55年体制始・1955 = 56歳 : 「**湯河原カントリークラブ・クラブハウス**」、

国連加盟・1956 = 57歳 : 「**清風寺本堂**」、

なべ底不況・1957 = 58歳 : 千葉大学教授(兼任)。**教え子丹下健三との共作「倉吉市庁舎**」は、

イスタラマ・1958 = 59歳 : ***ワルター・グロピウスから歴史に残る名建築と絶賛され、1957年度日本建築学会賞。随筆集「縁**」。

美智子妃・1959 = 60歳 : **東京大学教授を定年退職**。

安保闘争・1960 = 61歳 : 「**衆議院議長公邸**」「**参議院議長公邸**」「**西本願寺津村別院**」。***東京オリンピック施設特別委員会委員長**。

全国総合計画 1962 = 63歳 : 「**高知県庁舎**」、

東京リベンジ 1964 = 65歳 : 「**東京オリンピック施設**」で、

大学紛争始・1965 = 66歳 : **日本建築学会特別賞を受けて、まもなく、**

いざなぎ景気 1966 = 67歳 : **没した**。

東京大学建築学科で建築意匠設計教育に長くかわかり、研究室には丹下健三、前川國男、立原道造、浜口隆一、浅田孝らが在籍して巣立ち、とくに、前川や丹下らをバックアップして育てたことでも評価される。